

文化財ニュース

No. 37

発行 加古川市教育委員会 加古川市加古川町北在家23-1
編集 社会教育・文化財課 電話 24-1151

西条廃寺整備事業完了

加古川市では「豊かな市民文化の創造」を基本目標に掲げ、文化的、歴史的遺産の保護や文化性に富む都市環境の整備を進めています。

その一環としまして飛鳥時代（7世紀末）の市内最古の寺院跡である西条廃寺（県指定史跡）を市民の歴史学習やレクリエーション活動の場として活用するため、隣接の北山公園も含めて史跡公園として整備を進めていましたが、今年の3月末に完成しました。

平成3年度から3カ年計画で整備が行われていましたが、史跡公園の中心となる遺跡部分は4年度にすでに完成しており、5年度は隣接の北山公園部分に市内で初めてのローラーすべり台や木製遊具、古代住居風の休憩所等の設置や植栽等の整備を行ないました。

この工事の完成により塔、金堂、講堂の瓦積基壇等による復元や礎石の設置、中門・回廊等の植栽による明示など創建当時の伽藍配置が把握できるよう再現しています。特に、塔の瓦積基壇の一部には当時の瓦を使用し歴史的臨場感が味わえるように復元されています。

また、遺跡の北側にはゲートボールやバレーボール等ができる多目的広場を配置し、隣接の北山公園にはローラーすべり台や木製遊具等を設置して、幼児からおとしりまでの幅広い層の市民が活用できるよう整備しています。

今後は、西条廃寺史跡公園を拠点に、隣接の西条古墳群や八幡町の宮山遺跡、日岡山古墳群など近隣の文化財をサイクリング道や遊歩道で結び歴史文化のネットワークを推進していきたいと考えています。

（多目的広場の利用は公園緑地課へ ☎24-1151内線2833）

西条廃寺史跡公園（北山公園）の

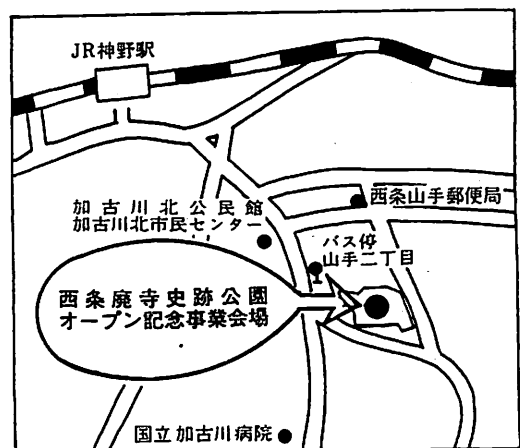
オープン記念事業を開催

市内で初めての本格的な史跡公園の完成を祝うとともに、市民の歴史学習やレクリエーション活動の場として活用いただくため、オープン記念事業を開催いたします。

- 日時 平成6年4月24日(日)午前10時から12時
- 会場 西条廃寺史跡公園（北山公園）
（雨天の場合は、加古川北公民館）
- 内容 竣工式典、史跡の解説、記念植樹、アトラクション、(神鋼飛龍太鼓、山手コーラス、加古川少年少女合唱団、兵庫女子短期大学ドラム&ビューグル・コース) 出土遺物展示などの楽しい催しがいっぱいです。

また、隣接の北山公園には市内で初めてのローラーすべり台や角材登りなど子供たちが楽しめる遊具を設置しています。

*どなたでも参加できます。(来場者には花の種のプレゼントがあります。)



駐車場が狭小ですので公共の交通機関をご利用してご来場ください。

宮山遺跡の史跡整備が終了

古墳の復元と緑の広場を設置

宮山遺跡は、加古川市八幡町中西条と上西条の間に所在し、北に「加古川」を望み、周囲は八幡町から平荘・上荘町にかけては印南野の自然環境が残っている場所です。周辺の歴史的環境としては、国指定史跡「西条古墳群」や、平成5年度に史跡整備が完成した県史跡「西条廃寺」があり、市内でも重要な埋蔵文化財保存地域となっています。加古川市教育委員会では、昭和62年度から宮山遺跡の歴史資源を生かした史跡公園の整備に取り組んできました。このたび史跡整備事業が完了しましたので、その遺跡と整備概要を紹介します。

1. 宮山遺跡について

宮山遺跡は、現在までに三回の発掘調査が実施され、縄文時代から平安時代までの遺跡があることが判明しました。遺跡は、縄文時代後期の敷石住居跡1棟、弥生時代から平安時代の建物跡や祭祀跡、中央部にある宮山大塚古墳と周囲にある6基の古墳などが複合して保存されています。

縄文時代後期の敷石住居は、地面を浅く円形に掘り、その底に石を敷きつめており、市内では最古の住居跡です。そして、次の弥生時代にも住居が作られ、恵まれた自然環境の中で人々の営みが続いていました。

古墳時代になると、丘陵中央部に宮山大塚古墳が築かれ、その周囲6基の円墳が次々に造られました。

宮山大塚古墳は、古墳時代中期（5世紀後半）に造られた

と思われ、その平面は帆立貝の形をしています。古墳の大きさは、直径約50m、盛土の高さ約6mあり、幅約6mの堀がめぐっています。

周囲にある古墳は、いずれも古墳時代後期（6世紀）に造られ、横穴式石室をもった直径15~20mの円墳です。1号墳は盛土と横穴式石室が、昔に造られた状態で残っています。3号墳から6号墳は、盛土は削られていましたが、横穴式石室が残っていました。

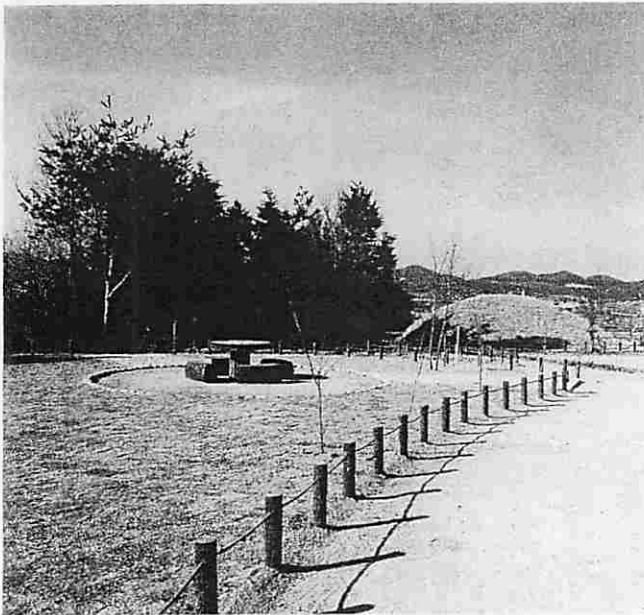
宮山遺跡は、歴史が重層している場所として昭和43年4月1日に、加古川市指定史跡に指定されています。

2. 宮山遺跡の整備について

宮山遺跡の整備は、昭和62年に第一期事業として遊歩道・保護柵などを設置し、その後第二・三期事業として古墳の盛土復元・遊歩道、休憩所、芝生広場の設置工事を行い、平成5年度に整備が完了しました。

宮山大塚古墳や1号墳は、現状を保存し、盛土が削られていた3~6号墳を築造当時の姿にもどし、また6号墳の堀の跡を、竜山石を使って表現しました。そして、古墳を巡る遊歩道を歩きながら、歴史を実感できるようにしています。また、宮山農村公園が隣接しており、ふれあいの場としても活用できるようにしています。

ぜひ、この機会に宮山遺跡の史跡公園を訪れてみてはいかがでしょうか。



緑の広場と古墳復元



古墳復元

頒布図書

【加古川市教育委員会刊行】

● 溝之口遺跡発掘調査報告書	8,000円	● 加古川市埋蔵文化財集報	500円	● 中山民俗調査報告書	1,000円
● 東中遺跡発掘調査報告書	1,200円	● カンス塚古墳調査概要報告書	200円	● 加古川市の文化財	1,000円
● 西条廃寺発掘調査報告書	700円	● 岸遺跡発掘調査報告書	200円	● 加古川市の民俗	1,200円
● 広尾東遺跡発掘調査報告書	500円	● 山之上遺跡発掘調査報告書	200円	● 地図で訪ねる	
購入ご希望の方は、教育委員会 社会教育・文化財課（5階）へお立ち寄りください。				● ふるさと加古川の文化財	1,000円

平成5年度 市指定文化財に4件を指定

加古川市教育委員会では、文化財審議委員会（委員長 吉田亨盛）の答申を受けて、文化財4件を新たに市指定文化財に指定しました。これにより指定文化財は、国指定22件、県指定28件、市指定28件になりました。

1. 弁財天立像



像高35.7cm

加古川町北在家 鶴林寺

この立像は、作られた時の状態を良好に残す小像です。立像の体部は割矧(わりはぎ)造りで、肩部には別材を当てています。全体に優雅な趣きのある像となっています。宝冠・持ち物は金銅製で、当初のものが残っており（光背・台座は後の補修）、全体として技工的にもすぐれた鎌倉時代の優品となっています。

3. 懸 仏 (かけぼとけ) 加古川町北在家 鶴林寺

懸仏とは、厨子に入っていて見れない本尊の代わりに懸けておく仏像です。指定になった懸仏は、台座の上に薬師如來像を置き、上部に天蓋を作り付けています。太子堂には、県指定になっている如意輪観音と聖観音の二面の懸仏があり、作風がよく似ています。このことから、太子堂の懸仏と同時代の南北朝頃の製作と考えられます。



径約35cm

2. 獅子頭

加古川町北在家 鶴林寺

この獅子頭は、聖霊会（しょうりょうえ）の儀式に用いられたものです。獅子頭の面部には彩色が施され、内部には朱が塗られています。頭は下顎部を欠損していますが、鎌倉時代のゆったりとした作風が感じられます。

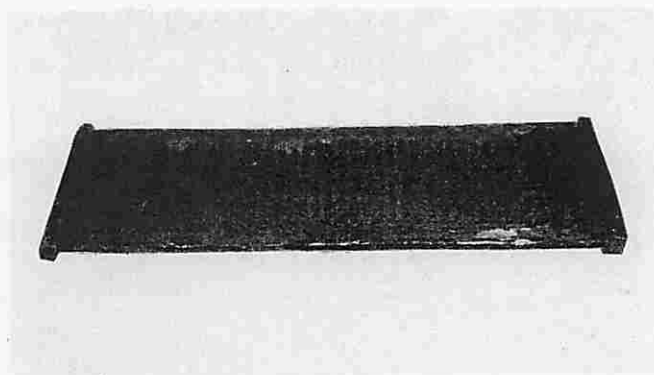


面長40.4cm(左) 40.5cm(右)

4. 法華経版木

加古川町北在家 鶴林寺

法華経を刷った版木で、二組が残されています。一組は、法華経全八巻62枚が揃っており、もう一組は16枚が伝わっています。この16枚の版木の中に、室町時代の年号である応永十二年(1405)の陰刻があります。



幅29.4cm×長96cm

〈新刊頒布図書のお知らせ〉

『加古川市遺跡分布地図』第2版刊行
市内の埋蔵文化財の全てを地図に記入し、
遺跡の一覧表を付けました。

一冊 1,800円

購入ご希望の方は社会教育文化財課まで。

加古川市文化財保護協会

文化財シリーズテレホンカード発行

1. 国宝 鶴林寺太子堂
2. 重文 尾上神社銅鐘
3. 重文 長楽寺地蔵菩薩半跏像
4. 県指定 龍泉寺当麻曼荼羅 各700円

西村遺跡の発掘調査

西村遺跡は、西神吉町西村にある弥生時代後期から奈良時代の集落跡です。遺跡の周囲には、縄文時代晩期の岸遺跡や、東に隣接して中西台地遺跡や中西廃寺などがあります。今回の調査は市道の建設に先立って、平成5年5月から9月まで発掘調査を実施しました。

調査によって見つかった遺構は、弥生時代後期の竪穴住居跡3棟（方形2棟・円形1棟）、古墳時代から奈良時代の掘立柱建物跡5棟や奈良時代前期の素掘りの井戸1基などです。

発掘調査の内容

竪穴住居跡のうち方形住居の2棟からは、焼け落ちた建物の柱材や壁土などが認められました。住居は南北に並んでおり、北の住居は3.40m×2.50m、南の住居は4.50m×4.60mの大きさでした。南の住居には、幅5～8cmの周壁溝（住居の中へ水が入るのを防ぐために壁に沿って板を立てた跡）が巡っていました。

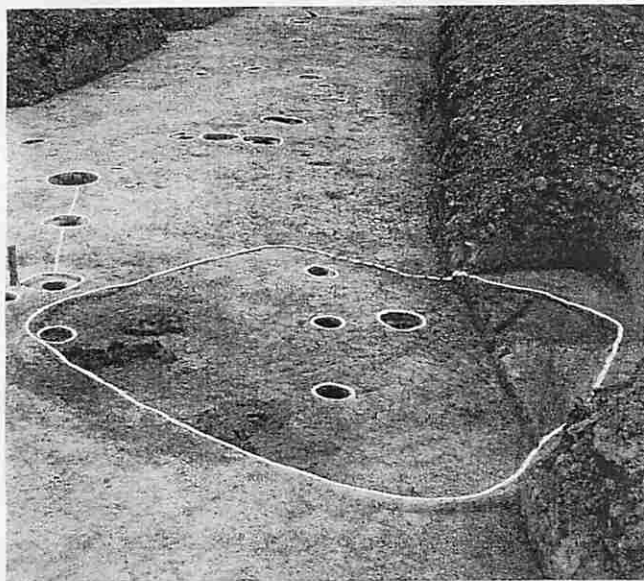
円形住居は、後世に削平を受けていましたが30%程度が残っていました。その規模は直径8.52mで、幅10～15cmの周壁溝と貯蔵穴が一つありました。住居内からは、壺・甕・高坏・鉢などの土器が見つかりました。これらは、当時の日常生活を知るうえで貴重な資料です。

掘立柱建物跡は、古墳時代中期1棟、奈良時代前期1棟、奈良時代後期1棟と、時期不明の2棟が見つかりました。

古墳時代の建物跡は、柱間を東西方向で2間を確認することができました。

奈良時代前期の建物の柱間は2間×2間あり、建物の一辺は3.20mありました。また、奈良時代後期の建物は、柱間が3間×3間あり、その規模は4.80m×3.60mでした。

今回の調査から、遺跡は眼下に低地を見降ろす段丘上に形成されており、東西の範囲は確認できませんでしたが、南北では200mの範囲であったと想定されます。



竪穴住居と掘立柱建物

美乃利遺跡の発掘調査

美乃利遺跡は、別府川新設工事に伴う発掘調査により発見され、古墳時代から弥生時代を中心とする水田跡や弥生時代の住居跡などが見つかりました。

今回の調査は、新井用水から別府川への排水路の建設に伴い平成6年2月に実施したものの概要です。

発掘調査の内容

調査は、南端・中央部・北端の3カ所で実施しました。

南端の調査地からは、まず古墳時代の水田跡が見つかりました。これは溝之口遺跡で確認されたものと同じで、幅10～15cmの畦を周囲に巡らした一辺約90cmの方形の水田です。次に土層を約15cm掘り下げると、方形区画の規模が1m×1.20mあり、畦の幅も20～30cmの水田が見つかりました。ここからは遺物は全く出土しませんが、その地層の深さや規模から弥生時代の水田跡と推定されます。この弥生時代の水田は、3回作り替えられていたことが判明しました。

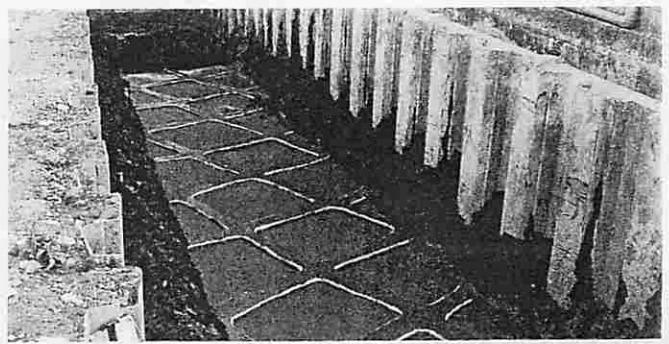
中央部調査地の弥生時代水田跡は、その畦を東西にずらして3回の水田を作っています。

北端調査地からも古墳時代の水田跡と、弥生時代の水田跡が見つかりました。古墳時代の水田跡は、先に記した南端調査地で見られたものと同じ規模でした。弥生時代の水田跡は、3回作られた水田の中で最も規模の大きい、中層のものを主に確認調査を行いました。その規模は約1.10m×約1.30mあり、畦の方向は地形に左右されて東西にや、湾曲した状態で続いていました。

今回の調査から、弥生時代から古墳時代の水田跡が確認されました。水田跡は今回の調査地からさらに北側に広がっており、日岡山の山裾まで続く可能性があります。



水田跡を探す



弥生時代の水田跡